

四国のお話から

狸と狐とお大師さん

むかしむかし、四国一帯には、狸と狐がたくさん往んでいました。狸と狐は仲が悪く、いつもケンカやモメゴトが絶えません。狐は狸より悪賢く、狸を追いまわすだけでなく、里人や往來の旅人に意地悪い妖術を使い、大変迷惑をかけていたのです。

里の人たちは思いあまって、当時の名僧として名高い弘法大師（お大師さん）に相談しました。すると、お大師さんは、みんなの難儀を何とか救おうと思い、四国中の狸と狐を集めて、「狐は本州に、狸は四国に住み分けし、瀬戸内海に鉄の橋が出来るまでは、狐は決して四国に帰ってきてはなりません」と狐を四国から追いだしてしまいました。

その後、四国では狸が幅を利かせるようになり、狸の話が各所に残るようになっていきます。千年以上を経て、お大師さんが予言した瀬戸内海に鉄の橋がかかりました。瀬戸大橋やしまなみ海道、大鳴門橋・明石海峡大橋の3ルートがそれです。狐が多く四国に帰ってきたのかも知れませんが、狸も彼らが大歓迎しました。狸と狐は大変仲の良いお友達になりました。それぞれが知恵を出しあい、里人や四国を訪れる旅人にも親切に接するようになりました。

仲良く暮らし、懐かしくも、それでいて新しい、元気で優しい四国づくりにひと役買ってくれているのです。

これでおしまい。ドッピンシャン。

